

1 短期的変動調査

○調査期間：令和2年10～12月，令和3年1～3月（四半期毎に評価）※

※評価は4半期毎に実施しており，両四半期における結果は同様であった。

目的	原子力施設の平常稼働時に放出される放射性物質の他，事故等により放出される放射線・放射性物質の有無や環境への影響の有無を早期に把握する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境(事業所敷地外):空間ガンマ線量率,放射能(大気,農畜産物,海洋)の測定 ・事業所敷地内:空間ガンマ線量率,放射能(大気)の測定 ・放出源(原子力施設の排気筒,排水溝):排気,排水に含まれる放射能の測定
監視結果の評価(案)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 空間ガンマ線量率(モニタリングステーション,モニタリングポスト)の測定結果が平常の変動幅の上限値を下回っていた。 ➢ 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響等により,放射性核種¹³⁷Csが大気塵埃,降下塵から,全ガンマ放射能が原子力施設の排水から検出された。

2 長期的変動調査

○調査期間：令和2年10月～令和3年3月（半年毎に評価）

目的	原子力施設周辺環境における放射線と放射性物質のレベル,蓄積傾向及び地域分布の状況などの長期的変動の有無を把握する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・環境(事業所敷地外):空間ガンマ線量率,漁網表面吸収線量率,放射能(大気,陸土,陸水,海洋など)の測定 ・事業所敷地内:空間ガンマ線量の測定
監視結果の評価(案)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響により,空間ガンマ線量率(サーベイ)の測定結果が事故前の測定値を上回り,積算線量の測定結果も多くの測定地点において平常の変動幅を上回った。(測定値は年々減少傾向にある。) ➢ 福島第一原子力発電所事故で放出された放射性物質の影響及び過去の核実験等に起因するフォールアウトの影響により,土壌,海底土などから¹³⁷Csなどの放射性核種が検出された。

3 線量の推定

○調査期間：令和2年4月～令和3年3月（1年毎に評価）

目的	原子力施設周辺地域住民の被ばく線量を推定評価し,法律で定める線量限度(1mSv)を十分に下回っているかを確認する。														
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・放出源情報に基づく実効線量 ・実測に基づく被ばく実効線量:積算線量による外部被ばく実効線量 環境試料により内部被ばく実効線量 														
監視結果の評価(案)	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 放出源情報に基づく実効線量 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td rowspan="2">放射性気体廃棄物</td> <td>外部被ばく</td> <td>0.0000mSv</td> </tr> <tr> <td>内部被ばく</td> <td>0.0001mSv以下</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">放射性液体廃棄物</td> <td>外部被ばく</td> <td>0.0000mSv</td> </tr> <tr> <td>内部被ばく</td> <td>0.0035mSv以下</td> </tr> </table> ➢ 実測に基づく被ばく実効線量 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td>積算線量による外部被ばく実効線量</td> <td>0.26～0.50mSv</td> </tr> <tr> <td>福島第一原子力発電事故で放出された放射性物質の影響による追加の外部被ばく実効線量</td> <td>0.00～0.25mSv</td> </tr> </table> ➢ 放出源情報に基づく実効線量及び実測に基づく実効線量とも年間1mSvを下回った。 	放射性気体廃棄物	外部被ばく	0.0000mSv	内部被ばく	0.0001mSv以下	放射性液体廃棄物	外部被ばく	0.0000mSv	内部被ばく	0.0035mSv以下	積算線量による外部被ばく実効線量	0.26～0.50mSv	福島第一原子力発電事故で放出された放射性物質の影響による追加の外部被ばく実効線量	0.00～0.25mSv
放射性気体廃棄物	外部被ばく		0.0000mSv												
	内部被ばく	0.0001mSv以下													
放射性液体廃棄物	外部被ばく	0.0000mSv													
	内部被ばく	0.0035mSv以下													
積算線量による外部被ばく実効線量	0.26～0.50mSv														
福島第一原子力発電事故で放出された放射性物質の影響による追加の外部被ばく実効線量	0.00～0.25mSv														